第一碑　至誠惻怛

「まごころと慈しむ心をもって生きていこう！それが生きてゆくうえで一番大事な事です」

これから生きていく上で一番大事な事は何だかわかりますか？

人と仲良くするために必要なのは「仁」（優しさ）ですね。ではどうしたら優しくなれるのでしょうか。山田方谷は、「至誠惻怛」であるといっています。至誠とは「何事にもまごころで接すること」惻怛とは「いたみ、慈しむ心」のことを言います。友達と仲良くするには、悪く言ったりダメなところを指摘したりするのではなく、常に友達の事を思いやり、嘘をつかず、まごころで接すると、自然といろんな人が助けてくれますし、多くの人が集まってきます。こうやって友達になった人が集まって、いつも楽しく過ごしていれば、誰かが困ったことがあっても助け合ってなんでもうまくゆきます。

山田方谷は、それが一番大事な事だと教えてくれているのです。

備中高梁駅西口ロータリーにあります

皆も、山田方谷の教えてくれている通り、友達にも勉強にも、まずはまごころで接し、そして慈しむ心もって、一番大事な「仁」を持った生活をしましょう。

第二碑　それ善く天下の事を制する者は、事の外に立ちて、事の内に屈せず。

「日本の国内で偉くなる人は、何か問題があってもその問題に捕らわれることなく、全体の正義を考えて行動し、問題そのものに変な妥協をしないものです」

何かに悩んでいる人いませんか？人は悩んでいるときに、寝ても覚めても、悩んでいる内容ばかり考えてしまい、他のことが手につかなくなってしまいます。山田方谷は、そんなことをよくわかっていて「それでは解決しません」ということを教えてくれています。山田方谷は、そのように何かに悩んだ時、問題を抱えたときは、まずは悩んでいる問題から離れて全体を見て考え、その全体にとって最も正しいということを行っていれば、問題は解決する。問題そのものしか考えないで、そこに負けてしまってはいけませんよ、ということを教えてくれています。

逆に、問題になっていることばかりを考え、全体に目を向けることが無いと、その問題は解決したとしても全体がうまくゆかなくなってしまい、結局新たな問題を抱えてしまいます。そして、問題が連続してしまい全体の正義を見なくなってしまえば、徐々に信用されなくなって助けてくれる人もいなくなってしまいます。それでは、多くの人の心が離れて行ってしまいます。それではよくありませんね。

山田方谷は、悩んでいる人にこそ、一度そのことを離れて全体を見ることを進めていてくれ

たのです。山田方谷の書いた「理財論」という本の中に書いてあります。

正宗公園

悩んでいるときこそ、一度大きく深呼吸をして全体を見てみましょう。そうすれば遠回りでも最も正しい道が見えてきます。

第三碑　義を明らかにして利を図らず。

「皆にとって正しいことを明らかに示して物事を行うべきであり、自分の利益のためにどんなに頑張っても褒められることではありません」

何かすごいことを成し遂げた人がいます。でも、その人が結局自分の利益のためだったり、名誉のためだったりしては、何かがっかりしますね。そういう人は、どんなにすごいことをしても、自分のためにやっているのではないかというイメージがついてしまい、最後にはみんなから見捨てられてしまいます。

山田方谷は、そのことも教えてくれています。自分の利益のためにやったのであれば、どんなにすごいことをしても、それはみんなに褒められることではありません。いかに自分が全体のために、皆のために頑張ることができたか。そのことが最も大事なのではないでしょうか。自分の評価や利益は、そのあと、自然についてくるものではないかと思います。

このことも、山田方谷の書いた「理財論」という本の中に書いてあります。

方谷記念館

常に皆のために正しいことをやりましょう。自分のためにやったことは、誰も評価してくれません。そんなことばかりしていると、最後には誰も相手にしてくれなくなります。

第四碑　我が心に嫌なれば、人にもさせず。我が心に好めば、人にも及ぼす。

「自分がやられて嫌なことは他人にもさせてはいけないし、自分がしてもらって嬉しいことは、他の人にもしてあげましょう」

ありがとう、って言われたらすごく嬉しくなりませんか？

逆に、何も言われなかったり、やってくれて当然、みたいに言われたりしたら、いやな気分になりますよね。

あなたが他人にされて嬉しかったことは、他の人もされて嬉しいし、あなたがされて嫌なことは他の人も同じように嫌な思いをしてしまいます。

山田方谷は、自分がそうするのは当然の事、自分の影響力のある他の人にも、嫌なことはさせないようにしなければならないし、良いことはどんどんといろんな人に広めてゆきましょうということを教えてくれます。皆が良いことをするようになれば、世の中全体が良くなり、なんでもうまくゆくようになるのですね。

「古本大学講義」の中に書いてあります。

有終館前

自分にとって嫌なことは、皆でやめましょう。自分がされてよいと思うことは、皆でできるようにしましょう。

第五碑　天に順ふて人道を尽す。其道は大公のみ。至誠のみ。

「神様から与えられた、人として進むべき道を一筋に進むように頑張りましょう。そういう道を進めるのは常に皆の事を考えて正義を行える人だけで、自分の事しか考えないような人にはできません。そしてそのような人はまごころをもって物事をすることができます」

山田方谷は、どんな生き方をしたらよいですか、と聞かれることがあったと思います。そんなときにこんな答えをしたのではないでしょうか。

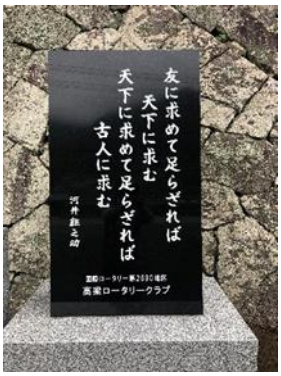
人それぞれ、できることも違いますし、事情も違います。多分、神様が生まれる時に、この人はこんなことをやってほしいと決めているのかもしれません。人間は、その神様（天）の決めた「道」を一生懸命に進むように頑張らなければなりません。でも、人間はどうしても寄り道したくなってしまいます。自分のやるべきことをしっかりとできるのは、実は私利私欲のない全体の事を考えられる人だけなのです。それは、全体の事を考えて、自分の役割ということをよくわかっているからそういうことができるのですね。そしてそういう人は必ず、まごころをもってその進むべき道を見ることができるのです。

山田方谷は、「三島桐南へ与ふ書」のなかで、三島さんにこのように教えてあげています。

観光駐車場

人生の中の自分の役割を知っている人は、その役割を一生懸命やることができますね。そういう人はまごころを持っているから、その道が見ているのです。

第六碑　友に求めて足らざれば、天下に求む。天下に求めて足らざれば、古人に求む。



「何かわからないことがあれば、まずは友達に聞いてみましょう。友達に聞いてもわからなければ、同じ時代に生きている人のやっていることを参考にしましょう。それでも足りない場合は、昔の人の書物を読んで学びましょう」

もしも悩み事があった場合、または勉強していてわからないことがあった場合、まずは自分の友達に聞いてみましょう。友達というのは、自分と同じような環境にいますし、年齢も近いです。お互いの性格も知っていますから、自分の性格にあった教え方をしてくれます。しかし、その友達もわからないときは、広く同じ時代の人がどんなことをして悩みを解決しているか調べましょう。地域や性格も違いますから参考になるところが少ないかもしれませんが、それでも同じ時代に生きている人ですから、環境などは似ているはずです。そして、それでも足りなければ、書物に書いてある昔の人の言葉に頼りましょう。そういう順序でわからないことを解決してゆけばきっとうまくゆきます。

山田方谷は、自分の弟子である越後（今の新潟県）の河井継之助にこのように教えていました。こうやって相談する順序を環境や時代の事を考えて決めていたのですね。

山田方谷の弟子の河井継之助の記した日記「塵壺」の中に書いてある言葉です。

八重籬神社

相談をするときは自分の近しい人、自分に環境が似ている人から順番に相談しよう。なんでも本に頼るのではなく、なるべく生きた学問をするように心がけよう。

第七碑　学業は、鉄を鍛うるが如し。一鍛、鍛えなば、休むべからず。

「勉強は鉄を鍛えるのと同じで、一回始めたら休んではいけません。休んでしまうとまた熱くなり鍛えるまで時間がかかってしまいます。一気に進めましょう」

山田方谷は非常に勉強のできる人でしたから、勉強のやり方を聞かれた時に応えた言葉がこれです。

ピアノの練習をしているときも、「一日休むと元に戻るのに三日かかる」などといいますね。一度何かをやり始めたら、そのままの勢いでやり続けることが上達の最も早道です。ここまでできたから休んでしまおう、などというなまけ心が最も良くないのです。毎日続けること、それが最も難しくそして大事な事なのです。まさに「継続は力なり」ですね。

御殿坂

何事も一度始めたらずっと続けよう。それが上達の早道です。それは学業でも同じことなのです。

第八碑　総て学問は、存心、致知、力行の三つなり。

「学問を学ぶということは、どんな学問でも自分で主体的に行うこと、物事の真理に近づくこと、そしてそれを実践することの三つの事を行うことにつきるのです」

なんでそんなに勉強しなければならないのでしょうか。学ぶことが辛くなってきたら、そのように思うことも少なくありませんね。

そのような時に山田方谷はその時に、学問を学ぶということの本質をこのように説明しています。まずは学問というのは自分で主体的に行うことが大事なのです。誰かにやらされたり、試験のために仕方なくやっていたりしたのでは身につきません。自分から学びたいと思う心が大事なのです。次にその学問を通じて物事の真理に近づくこと。要するに一つ一つ自分で何かがわかってゆくこと。そうすればまた次が学びたくなってきます。そしてもう一つはその学問で得たものを実践し社会のためになること。この三つのことができていれば学問を学んでいるということになるのではないかと説明していたのです。

皆さんは勉強するときに、そのような目的意識をもってやっているでしょうか。

この言葉は、「中庸講筵録」の中に書いてあります。

牛麓舎跡

勉強をするときは、目的をもって、自分が進歩・成長して、そして社会のために役に立つということを考えながら学びましょう。

第九碑　分けてみよ。今は葎のしげるとも、中に直ぐなる道のありしを。

「今は草むらの中で道を見失っていても、よく見ればその中にまっすぐな道が見えてくるように、人生でどんなに悩んでいても、しっかりと見極めれば解決に向かう道が見えてくるものです」

生きていくうえで、様々な悩みがありどうしたらよいかわからなくなってしまうことがあります。そのような時どうしたらよいでしょうか。実はそのまま迷って立ち止まっていても誰かが助けてくれるとは限りません。

山田方谷は、このような時に「今は草むらの中に迷い込んでしまったと思っても、その草むらをよく見れば何か解決への道が見つかるものです」ということを教えてくれています。草むらでも必ず小さな動物などが動いている道があり、その道をたどれば解決の方向に向かってくれるのです。迷った時こそ落ち着いて、よく全体を見て解決への道を探ることが重要です。もしかしたら、迷った時こそ最も良い道を見つけるチャンスなのかもしれないのです。

中洲公園

迷った時・悩んだ時こそ落ち着いて解決の道を探ろう。必ず解決の道が見つかります。

第十碑　誠心より出ずれば、敢へて多言を用いず。

「まごころから出た言葉というのは、多くを語らなくても通じるものです。逆に、たくさん語らなければ伝わらないことは、まごころより出た言葉ではないからなのです」

論語の中にも「巧言令色鮮し仁」(巧みな言葉を用い、表情をとりつくろって人に気に入られようとする者には、仁の心が欠けている。）というような言葉があります。本当に心のこもった言葉というのは、人の心を揺さぶり、感動を与えるものです。しかし、まごころから出ていない言葉は、心がこもっていないので、飾った言葉をたくさん使って説明しなければなりません。逆に、そのようにして説得しなければならないことというのは、あまり良いころではないし、相手が何かだまそうとしているのかもしれないのです。

この言葉は河井継之助が山田方谷から教えてもらった言葉として「塵壺」の中に書いてあります。

御茶屋

まごころから出た言葉は少なくても心が伝わるものです。なにごともまごころを込めた言葉でつたえるようにしましょう。

第十一碑　学問の道は誠意のみ

「学問を修めるためには、心を磨き誠意をもって学問を向き合う姿勢が重要なのです。」

とてもよく勉強のできた山田方谷に、「どうやったらそんなに勉強ができうるようになるのですか」と聞いたところ、「学問に対しても心を磨いて誠意をもって接することが重要です。いや、それしかないのです。そうすれば自然と勉強ができるようになりますよ」という答えがあったといいます。みんな勉強は嫌いかもしれませんから、仕方ないなあ、やりたくないなと思ってやっています。だからいつまでたっても面白くならないし、学問にも嫌われてしまうのです。なんにでも誠意をもって接する姿勢が大事なのですね。

山田方谷先生寓居跡（頼久寺）

何にでも誠意をもって接するようにしよう。それは学問に対しても同じで、誠意をもって接するとわからないものもわかるようになるのです

第十二碑　平天下

「人生の究極の目標は天下が平和であることなのです」

この言葉は、山田方谷がまだ8歳の時に「なぜ勉強するのか」と聞かれて答えた言葉です。大学という当時の大人用の教科書の中に人生にとって大事なことが 8個書いてあります。格物・致知・誠意・正心・修身・斉家・治国・平天下、この最後として究極の目標の言葉が、「平天下」なんです。天下全体が平和で、皆が笑顔で暮らせる世の中という意味で、人それぞれ、その平天下を目指して自分のやるべきことをやるのです。

備中高梁駅東口ロータリー

皆の究極の目標は天下が平和で笑顔で暮らせる世の中

番外　我が州の風土は、本より雄豪。鉄気は山に籠り、山勢は高し。更に人心の剛なること鉄に似たる有り。練磨して一たび就れば、刀よりも利し。

「我が備中の風土は、雄大であり豪壮である。山は鉄気をはらんで高く険しい。こういう中に住む人々の気質も鉄に似て強くたくましい。だから鍛えあげると、剣よりも鋭い人物が生まれる。」

山田方谷が、他の地域の人に「備中の人はもっと軟弱化と思った」といわれた時に

言い返した言葉です。「我が備中の風土は、雄大であり豪壮である。山は鉄気をはらんで高く険しい。こういう中に住む人々の気質も鉄に似て強くたくましい。だから鍛えあげると、剣よりも鋭い人物が生まれる。」と強い口調で言っています。今に生きる私たちも、自分の国や故郷に対して、このような誇りをもって対応したいですね。

備中高梁駅東口ロータリー